

【所属名：環境生活課】

【会議名：第1回糸魚川市環境審議会】

## 会議録

作成日 令和元年8月8日

日	令和元年7月30日	時間	13:30~15:45	場所	市役所201・202会議室
件名	議題 第2次環境基本計画策定について ・スケジュール確認 ・PDCA 進行管理指標の推移 ・アンケート結果 ・次期計画の基本的事項 ・環境施策の体系ごとの現状 (公開)				
出席者	【出席者】 12人 山縣 耕太郎(会長)、池亀 正文(副会長)、石橋孝一、伊藤 健一、小野 清隆、齋藤 伸一、杉野 朝子、杉本 日出晴、田村 三樹夫、葉葦 久尚、安田 初恵、吉田 惣栄 【欠席者】 1人 菅原 賢明 【事務局】 環境生活課：高野課長、小竹係長、木嶋係長、川原主査 株式会社サンワコン：森 洋市、小町 亮介				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	1人

### 会議要旨

1 開会・あいさつ 進行 小竹係長

議事 進行 山縣会長

《主な質疑・意見》

資料等に対する意見

【委員】 PDCA 進行管理指標と第2次環境基本計画の関係はどうか。

【事務局】 PDCA 進行管理指標は、前計画に記載された施策の進行具合を数値的に確認するためのもの。第2次環境基本計画では、いままでの状況を理解しやすいように示す予定。

【委員】 第2次環境基本計画では、PDCA 進行管理指標にある目標値を変更することもあるのか。

【事務局】 目標達成具合を見て変更する可能性がある。

2 策定スケジュール説明 資料No.1

【委員】 10月中旬に素案が出来ている予定になっているが、本審議会の位置づけは何か。

【事務局】 今回の審議会は、説明量が多いため、環境の課題と施策 資料No.6に後ほど課題等を記載していただき、それを踏まえて素案も作っていく予定。

### 3 PDCA 進行管理指標の推移 資料 No.2

- 【委員】 基本的には記載された目標値を第2次環境基本計画でも継続するのか。
- 【事務局】 計画の施策を実施したことで実測値が変動した項目と、施策と実測値の関連性が薄い項目とがある。第2次環境基本計画に記載する項目は、施策によって実測値が変動する項目の記載をしたいと考えている。
- 【委員】 目標値を達成した項目については、そのまま目標値を第2次環境基本計画に踏襲するのか、目標達成とうことで第2次環境基本計画には盛り込まないのか。
- 【事務局】 目標値を達成した項目は、より高い目標値を設定するものと、このままの値で見ていくものがあると思う。どちらにするかは審議会で議論を重ねる中で決めていきたい。
- 【委員】 不法投棄ボランティア監視員登録者数の指標は、なにを目的に設定した指標なのか。
- 【事務局】 平成22年度策定時は、不法投棄への抑止力の指標として盛り込んだと思われる。第2次環境基本計画では、審議会で議論し、不法投棄の量や件数など、より適切な指標があれば盛り込んでいきたいと考えている。
- 【委員】 それぞれの指標が示した値について、考えられる理由を示す必要があるのではないか。
- 【事務局】 指標の推移について、主だった理由がある項目に2.2森林の間伐実施面積がある。県の数値を基に記載しているが、平成25・26年度は国が力を入れて大幅に事業を拡大したことで数値が上昇している。平成27年度は国の施策の規模が縮小したことで、数値が減少している。
- 【委員】 目標値を変更する場合、あるいは目標値を達成できていない場合にはしっかりと検証し、理由や所見を分析して、第2次環境基本計画で対策するとよい。
- 【委員】 中間見直しについて、平成26年度に行われたと思うが、1.3市保有低公害・低燃費車所有率や2.1自然観察会等開催数など目標値を大幅に超えている物は、目標値を更新することでPDCAのサイクルを回してほしい。
- 【事務局】 第2次環境基本計画に目標値を大幅に超えた項目も記載する必要が出てくると思うので、目標値は事務局でも検討していきたい。
- 【委員】 不法投棄について、他に指標等考えているものはあるか。
- 【事務局】 不法投棄の件数や、ポイ捨てを回収した量などは指標として使うことが可能。
- 【事務局】 不法投棄は、対策を増やすほど、ごみ収集量が増加するという数値上のジレンマがあるので、指標の設定は慎重になる必要がある。

### 4 環境基本計画の基本的事項 資料 No.3

- 【委員】 市民アンケートの年齢別回答を見ると、40代以降の割合が多いが、人口構成に合ったアンケートの配布率、妥当性のある回収率になっているのか。
- 【事務局】 あくまで無作為抽出であり、意図的に若年層を少なくしたことはない。
- 【委員】 若者の回収率は少し低いと思われる結果。世代間で結果のギャップがあるのかが気になる。
- 【委員】 男女間の違いは分かるか。
- 【事務局】 本アンケートでは、質問項目に男女を問うものを含めていない。

【委員】 市民アンケート問3「大切にしたい系魚川の自然や風景、文化財や歴史的資源」の回答に、県立自然公園等の回答が少ない。市が力を入れている場所に回答が集中している傾向になっているのではないかと。

【事務局】 そのような傾向が見られると思う。しかし、回答数が上位だった箇所を重点的に保全していく方針ではなく、すべて見ていく中で系魚川の環境に必要なものや大切なものを保全保護していこうと考えている。

【事務局】 回答者が住んでいる地域の項目を挙げる傾向があると思われる。本アンケートでは系魚川地域の方の回答が多いため、系魚川地域にある項目の回答数が多くなっていると思われる。

【委員】 ごみについて、一人ひとりのごみ捨ての分別等意識が保たれていても、大勢になると分別に対する意識が低くなる事例を見た。今後も啓発を続けていく必要があるように感じた。

【事務局】 そのような心理的な傾向もあることも参考にしながら、引き続き周知啓発を行っていききたい。

【委員】 ポイ捨てと不法投棄との境界線が気になる。不法投棄ボランティア監視員という名称だと、ポイ捨てまでは取り締まらないように見える。どちらもしてはいけないという意識を持てるようにしたほうが良いのではないかと。

また、以前はごみの分別についてかなり細かな指導が行われていたが、最近はなくなった。

【事務局】 悪質な不法投棄は法的、ポイ捨てはモラルの違反になると思う。境界線は具体的に定義できるものではないが、ポイ捨ても不法投棄の一部になるので、そこも含めて周知が必要と思う。

ごみの分別指導などは地区によって温度差があるのが実態。今後なるべく地域に入って周知啓発できるように考えている。

【事務局】 学生のポイ捨てが多いこともあり、学校と協力してポスター等作ったこともある。引き続き周知啓発を続けていきたい。

【委員】 駅前ではたばこのポイ捨てが増えた。祭りなどで特に吸い殻が多くなる。観光客にとって地域を印象付ける場所なので非常に印象が悪い。取り締まりや広報の強化をお願いしたい。

【事務局】 こどもたちと美化活動をすると、大半のごみがたばこの吸い殻なこともあり示しがつかない。観光への影響もあると思うので、周知していききたい。

【委員（上越地域振興局環境センター長）】

不法投棄の調査を、過去に上越市と妙高市で行ったが、そのほとんどが家庭ごみ由来であり、産業廃棄物の不法投棄はほとんど見られなかった。不法投棄で警察に検挙されるものもほとんどが家庭由来のごみである。また、不法投棄とポイ捨ての違いは何かという量で判断するしかないが、法律的にはどちらも不適正処理廃棄物となる。

【委員】 農地の放棄について、放棄された水田は野草が繁茂して地域の景観を損なっている。解決できる方法はないかと思う。

【事務局】 所有者がわかる場合は、自治会を通じて所有者に対応をお願いすることもあるが、

所有者がわからない場合は、市に報告していただければ所有者へ文書にて通知している。

【委員】 アンケートの回答について、若い世代の回答が少ない。この世代特有の考えもあるのではないかと。10代には回答を記入することで、意識啓発のきっかけになるのでは。若い世代が回答できるような工夫をしてもらいたい。

【事務局】 10代については今後別途意見などを聞く方法を考え、結果をお示ししたい。

【委員】 アンケート結果について、年代間で見られる違い等はなかったか。

【事務局】 年代別にアンケート結果を見ると、地域の環境に対する満足度に関して、10-20代は50代以上に比べて不満、どちらかという不満を合計した割合が低くなった。これは50代以上が以前の環境と比較して不満が多くなっているのに対して、10-20代は今ある環境を受け入れていると推測される。また、環境に対する関心度に関して、10-20代はアスベスト問題やダイオキシン問題など、過去にムーブメントがあった問題や用語の難しい問題へ関心度が下がる傾向があった。資源化に対する関心度は10-20代と50代以上との世代間に20%程度の差があった。ほかの項目は全体的に世代間で結果の乖離はみられなかった。

#### 5 環境基本計画の基本的事項 資料 No.4

【委員】 新エネルギービジョン、地球温暖化対策実行計画区域施策編は独立したものでなく、環境基本計画に盛り込んでいくのか。

【事務局】 そのように考えている。

【委員】 新エネルギービジョンと地球温暖化対策実行計画区域施策編は、策定時点では何年の見通しで作成されたのか。

【事務局】 令和5(2023)年までの10年を見込んでいた。今年度は中間見直しの年度のため、目標値を見直しながら基本計画に盛り込み、さらに10年間継続することを考えている。

【委員】 計画の対象範囲について、環境行動の内容にある「人材等の育成」は人口減少にあわせて人口の確保という視点もいれるとよい。

【委員】 国や県の基準値を環境基本計画で使用する場合、国や県で変更されるたびに本計画でも調整が必要になるが、毎回変更を行うのか。

【事務局】 国や県が基準を変更した場合、大幅な変更であれば市でも対応が必要だが、大幅でなければ従前の基準を追っていく予定にしている。

【委員】 糸魚川の総合計画では、下位に実施計画があるが、環境基本計画にはないのか。

【事務局】 環境基本計画の中に具体的な施策を盛り込んでいく予定である。実施計画が基本計画のなかに入っているようなイメージで作成していきたい。

【委員】 計画の対象範囲の環境行動という分野について、以前盛り込まれていた「歴史的・文化的資源」がなくなっているがなぜか。

【事務局】 環境基本計画の趣旨から外れる表現もでてくるので、意識的に外している。

【委員】 分野の一つ、「自然環境」を「生物多様性」に変更するのは、表現が適切ではないのではないか。

【事務局】 表現については再度議論を重ねて考えていきたい。

【事務局】 環境省などが定義している生物多様性という言葉には、生態系の多様性も含まれており、これに地形の多様性や景観の多様性などが含まれる。広義な意味合いを持っているので、自然環境という分野でくくっていた内容を置き換えても問題はないと考えている。

【委員】 新エネルギーと再生可能エネルギーという用語が混同しているように思える。統一したほうがよいのではないか。

【事務局】 基本的には再生可能エネルギーという表現を使っていく。平成 26 年策定の施策が新エネルギービジョンという名称なので、混同しているように捉えられないよう調整していきたい。

## 6 環境施策の体系ごとの現状 資料 No.5

【委員】 地球環境の CO2 排出量のグラフで、平成 23 年度に値が大きく上昇している理由は、

【事務局】 平成 23 (2011) 年度は東日本大震災の関係で原子力発電が止まり、化石燃料に依存した発電量が多くなった。結果として CO2 排出量が上がっている。

【委員】 生活環境の水に関して、グラフで示しているのは大腸菌の濃度だと思うが、環境基準値から超過しているのはなぜか。

【事務局】 土壌由来の大腸菌群が河川へ流れ出ている。また、河川の水量が少ないときに大腸菌濃度が高くなってしまいう傾向がある。人体へ重大な危害を及ぼす大腸菌ではない。

【委員】 大腸菌に関して、農業用水の排水路との関連があると思うが、いつ採取された、またどこで取られたデータなのか教えてほしい。

【事務局】 直近では 5 月末と 10 月中旬に行った。測定場所は能生川では、権現荘付近が上流採取地、山王橋が中流、能生橋が下流になる。

### その他の問題について

【委員】 森林の管理について、森林の所有者が管理する林地を把握できておらず、相続することも難しい状況である。木材の値崩れが根本的問題だと思うが、解決できる方法はないのか。

【委員 (糸魚川地域振興局農林振興部長)】

深刻な問題と受け取っている。森林の管理、引継ぎについて市と森林経営管理制度を策定して対応を進めている。

【委員】 環境基本計画について、市民に分かりやすいように概要版を作成してほしい。

【事務局】 概要版については、市で調整していく。

## 7 その他

審議委員意見聴取について 環境の課題と施策 (事業) 資料 No.6 作成依頼  
次回審議会は 10 月下旬頃を予定

## 8 閉会 池亀副会長